
漢字ファイト！！

高浜ゆりえ

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

漢字ファイト！！

【Zコード】

Z5632B

【作者名】

高浜ゆりえ

【あらすじ】

漢字ファイトとは、どこの学校にも存在する机を舞台に、漢字と漢字が互いの存在をかけて体をぶつけ合い、殺し合つ超新感覚の脱力系スポーツである！！感じるな　感じろ！！

漢字ファイトとは、どこの学校にも存在する机の表面を舞台上に、漢字と漢字が互いの存在をかけて体をぶつけ合い、殺し合つ超新感覚の文学系スポーツである！

『一回戦！赤ゴーナー…【火】^ひ選手の入場です！！』

机の表面にファンファーレが鳴り響き、司会役の筆箱が大声で叫ぶ。

すると【創造主】である鉛筆により、【火】という文字が書かれた。

「俺は負けねえ……かかつてこいやゴルア！」

机の表面に書かれた火という文字は針金のように浮き上がり、机の上に立ち上がった。

こいつは【火】選手。

漢字ファイターの中では比較的人型に近い形状をしており、横につけた上向きの2つの腕と、2つに分かれた足で相手を粉碎する。

「シュー・シュー・シュー・シュー！」

火は肩を鳴らすと、風を切る音を自分で言いながら両腕でシャドー

ボクシングを始めた。

『おおーっ？！火選手の百烈パンチだアー？！』

火選手は自らが立つ机の表面を拳で殴りつけて揺らし、敵のファイターを作り出す【創造主】である鉛筆を睨みつけた。

「今日の相手はどいつだコルア？！」

意氣込む火 果たしてその大戦相手とは

「フツー相変わらず 暑苦しい奴ですね」

冷静な声が、熱き漢字ファイターを嘲る。

その漢字ファイターは、【火】選手や【大】選手などに代表される人型とは少し違った形状をしていた。

「【亞】選手の入場でエエエす！！」

「僕のような優雅さのない粗暴な火など 消し去つてあげますよ

【亞】選手は下の横線で机の上に立ち、中央の2つの曲がった縦線をバネにホップして動く、瞬発力に優れたファイターである。

「ケツ！ 1ラウンドでボコボコにしてやんよ！！」

亞を睨みつける火、机の上に立つ彼は黒い針金のよえな質感だが、その闘志は燃え上がっていた

火だけに

『では両者、所定位置について下さい…』

筆箱の指示のもとに、火と亞はお互いに一十センチほど離れた。これは漢字ファイトの公式なルールに基づく、所定位置である。

（…見ててくれ【川】…このファイトの優勝賞金で… 二人の結婚式をあげよう…!…）

火はリング（机）の端っこで観戦している【川】をちらりと見た。火と川は恋人同士であるが、貧乏な（画数の少ない）二人は生活に困るのを恐れ 結婚には踏み出せないでいた

（…死なないで…火さん…）

彼女は焦っていた、今日の火はいつもとは違う闘志が仇にならなければよいと 切に願つた。

余談ではあるが、二人が結婚して夫婦の嘗みをするとDNAが作用し【災】という形状の漢字ファイターが生まれてくる。

それは、それとして

『漢字ファイト レディー…ゴー…!…』

司会役の叫びと熱いゴングが鳴り響く。

最初に動いたのは 火であった

（相手はバネのように「う」くスピードタイプのファイターだ… 時間をかけたらこっちが不利だ）

火は、所定位置に立ち微動だにしない亞に向かつて走り出す。机の上の埃が一気に舞い散り、一人の間で踊る。

「前座は 一気に叩き潰す！！」

風を切る右腕、凄まじい速さの一撃が亞に向かつて放たれた
が。
だ

「フツ 僕が君の前座だつて？」

「なにつ？！」

防がれた火の一撃

亞は体を横して上の線を使い、火の拳を受け止めた。
そして

「君が僕の前座なんだけど？！」

亞は体の中央の2つの線をバネのように圧縮して縮み、上の線で火の拳の衝撃を受け止め そのまま押し返した

「うわああああッ？！」

自らの拳の力で吹き飛ばされる火。

その体は机の上を転がり、反対側の端っこまで吹き飛んだ。

「火さんッ！」

川が鳴きやうになりながら叫ぶ。

「くつ……」

リングの端っこは断崖絶壁となつており、火は両手でその端っこに掘まつた。

「人型の終わりだ　死ね！火！」

端っこに掘まり絶体絶命の火の両手を下の線で踏みつける亞。ギリギリと踏みつける音が響き、凄まじい痛みと自分の体を支えている疲労に火の手はガクガクと震えだした。

（やられる　？）

火が瞳を閉じよつとした瞬間　聞き慣れた声がリングの上に響いた

「火さあああん！負けないでえええつ……」

川の声援である。）

（川　　そうだ…俺は　　負けられねえんだ！！）

愛するものの想いを受け止め火の闘志は再び燃え上がつた火だけに。

「つおおおおおおおッ！！」

火は自らの腕を踏みつける亞の下の線にヘットバット（真ん中の線を使った）を繰り出す。

「なにっ？！ぐああっ？！」

よろめく亞を前に一気に断崖絶壁から脱出する火、勿論足に踏まれていた自分の手もヘットバットの衝撃をうけたが、闘志で我慢した。

「終わりだ！！」

火は亞を横から蹴り飛ばした。

バネを倒すためには、横から衝撃を「えればいい

亞は横から蹴られたために衝撃を跳ね返せず、断崖絶壁から奈落の底（床）へと落ちていった。

『亞選手リングアウト！！勝者は 火選手！！』

ゴングの音が鳴り響く。

火選手はリングの反対側にいる川の元へと駆け寄り、ガツツポーズをした。

「やつたぜえええッ！！」

『一回戦進出は火選手！！期待のルーキーでええすーー！』

勝利し、一回戦へ進出した火選手。

その一方で床へと落ちた亞選手に、最後の時が迫っていた

「そんな！ボクが……消えるなんてええつツ！」

【創造主】である鉛筆により生まれた漢字ファイターである亞は、
【破壊神である】消しゴムにより、少しづつ消去をされていく

「ああ
」

断末魔が消えた頃には、亞と呼ばれた漢字ファイターは消しゴムの
粕と化していた

勝負の世界とは……非常に厳しい！

数分後

「ぐああッ！－！」

次に床へと落ちてきたのは……先ほどの勝者・火選手であった。

「ぐつ……すまない川……俺

」

謝罪の言葉と共に消去されていく火

彼は負けた

しかし、誰も彼を責める「」とはできないであろう

なぜなら、一回戦の対戦相手は

【炎】

だつたのだから

様々な想いと理不尽がほとばしるそのリングの上で、漢字ファイト
は今日も行われている

終わり

（後書き）

誰もが想像しなかつたであろう「新感覚の戦い【漢字ファイト】」如何だつたでしょうか？

あまりにもおバカで脱力感に満ちたお話で、書いている側としては面白かったです。

ご意見、ご感想をお待ちしております。

【火】は負けてしまいましたが、今日もどこの机の上で、漢字ファイトが行われているかもしれませんね

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとっています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n5632b/>

漢字ファイト！！

2010年10月9日02時34分発行